

編集・発行 / 石狩市企画経済部秘書広報課 〒061-3292 北海道石狩市花川北6条1丁目30番地2 ☎0133-72-3145 FAX0133-74-5581
http://www.city.ishikari.hokkaido.jp/ ✉hisvokoho@city.ishikari.hokkaido.jp

制作 / (株) キューブコーポレーション
印刷・製本 / (株) ナイワード

配布問合せ / (有) エリス企画 ☎0133-73-5444
厚田区・浜益区は各支所へ 厚田 ☎78-2011 浜益 ☎79-2111

広告

「歌は世につれ、世は歌につれ」

名司会者の流暢なせりふで始まる歌番組、二年の「取り」はNHK紅白歌合戦と多くの国民は思っているはず。今年流行った歌は全く分らないけれど、習慣とでも言うのか、茶の間には紅白が映っていることになる

▼「空オーケストラ」が「カラオケ」として造語認知されてから随分経ち、歌は聴くだけではなく、今や誰もが歌手を疑似体験できる時代となった。その上、ストレス解消や健康増進にも効果があるとなると、老いも若きも二斉にカラオケを楽しんでいる

▼「石狩川悲歌」三橋美智也、♪「石狩川よ」北島三郎、♪「厚田村」新沼謙治、♪「石狩哀歌」神野美伽と記憶をたどると、歌謡曲の舞台に登場する「石狩」は幾つもある。北海道のアカデオン界では知らぬ者はいないスナック「頓喜」のマスターから、市長なら知っておいて損はないよと教えられたのが昭和29年第5回紅白歌合戦の取りを飾った

♪「石狩エレジー」霧島昇であった
▼政治、経済、社会を反映する流行歌は、今やカラオケを通して現代社会を映す万華鏡の役を果たしている。当人はひたすら点数を上げることに「生懸命なのだろう。あなたの平成最後の一曲は何？」 (市長)